

ひと あい えどがわ

No.33

発行日 / 2016.11.1

創刊日 / 2007.4.10


EDOGAWA
 SINCE 2004
 SOUGOU-JINSEI-DAIGAKU

<http://www.sougou-jinsei-daigaku.net/>

祭

祭

祭

祭

祭

報告特集

祭

祭

祭

祭

祭



大学祭

「学ぼう・人の和・地域の和」

生かそう あなたにできること

2016年7月23日タワーホール船堀

13期生の皆様、ご入学おめでとうございます

10月5日（水）篠崎文化プラザにて入学式が行われ、89名の方が江戸川総合人生大学に入学されました。

北野学長や学科長よりお祝いのお言葉をいただき、多田区長からは励ましのお言葉を頂戴しました。

また新入生を代表して国際コミュニティ学科の大野正夫さんが抱負を述べました。

これからの2年間、充実した学生生活を共に過ごし、地域貢献につなげていきましょう。

江戸川総合人生大学 入学式



〈北野学長の式辞の様子〉

平成28年 江戸川総合人生大学 入学式



〈新入生代表の抱負の様子〉

人
生
大
学

地域のために自分の力を活かしてみたい。江戸川総合人生大学はそんな方を応援するために江戸川区が開設した大学です。（* 学校教育法で定める正規の大学ではありません。）

1,021名の
方がご来場!!

第11回 江戸川総合人生大学祭

各学科の展示・体験コーナー、ステージの様子

江戸川まちづくり学科

まちの基盤は暮らし、暮らしを考えたとき防災と安全が重要ということで「暮らしと安全」をテーマにした11期生は、「防火・防災の今昔(いまむかし)」に関する展示と昔の暮らしを体験する「縄ひもづくり」に取り組み、さらにステージではQ&A「江戸川区ここはどこ?」を演じました。

また、花卉栽培が盛んな江戸川区の魅力を伝えるため「花のまち江戸川」をテーマにした12期生は、写真を中心とした「花のまち江戸川の魅力」の展示と花を題材としたちぎり絵を体験していただくとともに、ステージではレイをかけ華やかに「フラダンス」を披露しました。

それぞれのリーダーに苦労話などについて伺いました。

(11期) 体験コーナーで使用する縄の材料が手に入らず、仕方なくビニールひもを利用したが湿り気がなく加湿する必要があった。こんなところでも天然材料の素晴らしさを感じた。ステージは前年と同様のQ&A企画だったが、昨年は正解者が少なかったため今年は全員が正解できるように工夫を凝らした。

(12期) ほとんどのメンバーがフラダンスを経験したことがなく練習時間の確保も容易でなく、曲をコピーし自宅練習する人までいた。また、フラダンスのコスチューム・飾りも工夫し彩りを添えた。体験コーナーではちぎり絵の台紙が不足し、あわてて会場内で台紙を手書きで作るほど大盛況だった。展示を飾る鉢植えの調達も大変で、区と江戸川区花卉園芸組合の協力を得てアサガオ、ペコニアを飾り「花のまち江戸川」を演出できた。

また、大学祭を終わってからメンバーに感想を伺ってみました。

(11期) 「縄ひもづくり」は、若い人たちに昔の暮らしを体験してもらうつもりが、懐かしがる人達が多くきていた。またビニールひもに代わったことで、色とりどりの縄ひもを作ることができ、美しい・かわいいとの意見も聞けた。

(12期) 初めての大学祭でしたが、2ヶ月以上にわたる準備と練習の成果を予想以上の人達に喜んでもらえ大成功だったと思う。テーマの「花のまち江戸川」の魅力は十分に伝えることができたと思う。

(まち12期 榎本清一・箱島実)



〈江戸川区ここはどこ?〉



〈フラダンス〉



〈縄ひもづくり〉



〈花のちぎり絵〉

国際コミュニティ学科

11期の体験のおりがみコーナーでは、大人から子どもまでたくさんの方が完成させた作品に大満足の様子。

「世界の衣装を着てみよう!!」では、お気に入りの衣装に着替え、皆さんモデル気分ポーズを決めて写真を撮り、中には何着も試着される方もいて大盛況。

展示コーナーでは、在住外国人にやさしい日本語、ごみの分別を英語で併記し、区内の日本語サークル案内やクラスの参加者の感想を添付し分かりやすく展示しました。

ステージでは、日本語講師の田辺先生の指導で、国際コミュニティらしく外国人に日本語を教える手法の1つを、来場者と一緒に日本語学習ゲームを通して紹介し、大いに盛り上がりました。卒業後の個々の活動につながる、展示・体験・発表ができたと思います。

仲間との最後の大学祭なので、皆で頑張りましたが、一致団結して取り組むことの難しさも感じた大学祭となりました。

12期生にとって、何もかもが初めての大学祭だったので、まずテーマをどうするか決めるところから悩み、その後も利用できるスペースはどのくらいなのか、利用できる機材はなど、当日まで不安がいっぱいで、当日もとにかく大変で疲れました。

展示・体験コーナーでは、民族衣装の展示と「クイズで遊ぼう! これはどこの国?」「ミャンマー伝統 八曜日占い」と民族衣装の試着と「割り箸で知恵の輪」「紙ずもう」をしました。小さな子から、高齢者の方まで好評で楽しんでいただけようです。それまでの苦労が報われたようで嬉しくなりました。

ステージの日本語学校の劇「インターナショナルスクール江戸川」は、とても演技力が高く素晴らしい劇で、会場を楽しく盛り上げてくれました。

(国際11期 柳澤千夏、国際12期 大島なお美)



〈11期 体験コーナー〉



〈11期 北野学長と〉



〈12期 国あてゲーム〉



〈12期 日本語学校劇〉

子ども・子育て応援学科

11期の展示コーナーでは2年間の学びの成果をまとめました。

6月11日共育プラザ葛西での「親子で遊ぼう!」のイベント報告は、読み聞かせ・手遊び・手作り工作・ペットボトルでボーリング・自由コーナーの様子を、写真を使って模造紙にまとめ、ご参加いただいた皆さんの楽しそうな顔を披露できました。

体験コーナーでは折り紙・発泡スチロール・紙皿・ビーズなどを材料に壁掛け・風車・プレスレットなどの手作りに参加者の皆さんが熱中していました。楽しく作っている様子を見て、大成功だったと思いました。

ステージ発表は練習した手品に挑戦、ロープやトランプ・花などを緊張しながらも使ってマジシャン気分でも披露できました。ハンドベルの演奏は分担した音階を鳴らして「大きな栗の木の下で」「きらきら星」「エーデルワイス」の3曲を楽しく演奏しました。

事前に計画したようにできなかつたり、色々勉強になったことが多くありました。クラスの仲間と楽しく準備でき、イベント当日の親子の笑顔が何よりの励みになりました。感謝・感謝です。

12期の展示・体験コーナーでは、私たち12期13名を「一二三・子・育・援」と名付け、この一年の授業で学んだ興味深い内容を発表・展示し、「みんなで創ってあそぼう」折り紙、とびカエル、コサージュ作りを行いました。

ステージでは伴奏者(車イスのクラスメイト)のもと「ガンバレ熊本」をテーマに熊本の歌、おてもやん、あんたがたどこさなど、最後に熊本の一本締めで終わり、熊本地震の復興をお祈りしました。

また来場者の皆さんに、花の形のカードに一言(うれしいこと、幸せなこと、困っていること、悩んでいることなど)を書いていただき、大きな木にたくさんの花を咲かせました。[集計結果75枚]

1位 子どもや孫の幸せや健康を願う

2位 子どもから親へ“ありがとう 大好き!”という気持ち

3位 家族は大切 笑顔は安心

他に、外で遊ばない、言うことを聞かない、人の顔色を見るなどの意見がありました。この企画や意見を通じて今後の活動に反映させていきたいです。

(子ども11期 山内康、子ども12期 一山輝江)



〈11期 体験コーナー〉



〈11期 ハンドベル〉



〈12期 ブースの様子〉



〈12期 たくさんの意見の花の咲いた大木〉

介護・福祉学科

11期生の展示ブースではテーマを「私たちの2年間」とし、高齢者問題を中心に以下の内容を発表しました。

①シルバー人材センターを訪問し、併設のシルバーお助け隊の仕組みも取材し、シニア向け就労支援を紹介 ②高齢者の歩行の特徴を調べ、ウォーキング効果も調査。熟年介護サポーター事業を紹介 ③健康寿命をいかに延ばすかを調べ、関連で江戸川区が取り組んでいるリズム運動を紹介 ④高齢者の孤独死・孤立防止問題に迫り、一人暮らしの熟年者の実態、区が取り組むみまもり隊の各団体の参加状況等を調べて紹介。さらに地域包括ケアの拠点「なごみの家」誕生も紹介 ⑤現場から見たボランティア活動体験を詳述。

また体験コーナーでは特殊な粘土によるストラップ作りが好評。ゲームコーナーではストロー吹き矢とペットボトル輪投げが人気でした。

ステージでは「ちょこっと手話で弾けよう」と題し、手話合唱を披露して会場を沸かせました。

12期のブースでは、大学でこの1年間学んできた認知症、熟年相談室、特養等の特徴ある介護施設を紹介する展示コーナーと子どもたちの喜ぶ塗り絵、マナー豆、ブローチ作りのテーブルを配置した体験コーナーを設け、多くの方々に喜ばれました。ブローチ作りのコーナーでは盛況のあまり準備した資材が終了時間前になくなってしまい、閉店せざるを得ないという嬉しい誤算もありました。また、ステージ発表では、グッパ体操とユーモラスなおかめとひょっとこのバカ面踊りを披露し、来場者から笑いと喝さいが湧きあがりました。

私たちは、昨年10月入学し、介護・福祉科を選択してこの1年間様々なことを学びました。大学祭について何の経験もないなかでパソコン操作を始め、計画、立案、宣伝方法等について指導を受けつつ前向きに準備を進めました。当初、大学祭のような大きなイベントが未経験な私たちができるのだろうかという不安が一杯でした。しかし、事務局の方、先輩の方々からの知恵や励ましにより不安も払しょくされ、前に前に進むことができ、無事成功裏に終わることができました。大学祭を振り返り、多くの方々のご意見や指導のもと成し遂げられた賜物と感謝せざるを得ません。今回の大学祭は、目標入場者数をはるかに超え、本当に驚きと感動を覚えました。

(介護11期 大野一雄、介護12期 熊谷富雄)



〈11期 ブースの様子〉



〈11期 ステージの様子〉



〈12期 クラスのみなさんと〉



〈12期 ステージの様子〉

《ステージ》北野学長を囲んで

今回の「北野学長を囲んで」は、例年と趣向を変えて4学科8クラスから8人の学生と司会者1人が学長を囲んでQ&A形式で始まりました。

開始冒頭は、開校以来12年に渡る江戸川総合人生大学の変遷や在校生の学生気質の変化や少子化・高齢化社会に対する質問など固い話題の質問が続きました。後半は学長の日常生活や趣味に関するくだけた質問もあり、最後は来場者からの質問もありました。各質問に対して学長からは、弟のビートたけし(北野武)さんの話やレギュラー出演していたクイズダービーの話を含みながら分かりやすい回答があり、30分間という短い時間でしたが、途中笑い声や拍手もあり、なごやかな雰囲気うちに終わりました。

(子ども12期 一山輝江、介護12期 西峰正二)



〈ステージ「北野学長を囲んで」〉

《ステージ》学科長は語る

Q&A形式で各学科長の趣味や性格などを聞いたあと、大学でどのようなことをしているか、また何を望んでいるかという質問で進められました。

各学科長のお言葉によると、小さな子どもから高齢者、外国人、いろいろな悩みを抱えている人たちに我々がどうやって安全で豊かな人生を江戸川区で送れるようになるのか、区民とどう関わっていけるかを考えていくことを学ぶのが人生大学です。

子どもから高齢者、いろいろな人からエネルギーをもらい、皆が自主的に小さなことから人の役に立ちたいと思うこと、住みやすい江戸川区の町づくりを目指し、大学で学んだことや出会ったたくさんの人たちをこれからの生活に生かし、豊かな人生を共にしてほしいと語っていました。

(国際12期 大島なお美)



〈ステージ「学科長は語る」〉

《同窓会》おやすみ処 よってこ

江戸川総合人生大学同窓会が運営する恒例のイベント「おやすみ処 よってこ」の会場は1階の展示ホールとは別の3階の会場です。

展示コーナーでは、卒業生が立ち上げた地域活動グループの紹介や、今年から親睦を目的に新しく始めたクラブ活動を紹介していました。

体験コーナーでは牛乳パックと折り紙でコマ作りを行いました。参加した子どもたちもできあがった色鮮やかなコマを回して楽しんでいました。

ステージでは尺八と琴の合奏、二胡の演奏、合唱などで観客を魅了していました。

喫茶コーナーではお茶を飲みながら、旧知のクラスメートとの再会を喜ぶ姿や談笑する姿が見受けられ、大学創設以来10数年を超える人の輪の豊かさが垣間見られました。

そうしていると会場の一角に浴衣姿の女性が三々五々集まってきました。ステージで企画した盆踊りで、参加した女性は「人生大学卒業生の盆踊りはとても楽しいので、今年も参加しました」と言っていました。

1階のホールでは、ステージのエンディングに卒業生も一緒に参加し、合唱していました。今回の大学祭は1,021名もの方々がご来場くださいました。卒業生の方々が積み上げてきた人生大学での実績や地域での活躍によって、多くの方々に広く人生大学を知っていただけているのだと実感しました。

(まち12期 榎本清一)



〈展示の様子〉



〈ステージでの琴の演奏〉



〈喫茶コーナーの様子〉

《特別企画展示》江戸川区今昔ものがたり

展示ホール1・2の会場中央には特別企画として「江戸川区今昔ものがたり」をテーマに展示を行いました。在校生が提供した写真や記録、調査資料などを集め、区内の町名の変遷や昔の地図や写真、教科書などを展示しました。昔を懐かしむ方や現在との違いに驚く方が見受けられました。



〈尋常小学校の教科書等を展示〉



〈皆さん熱心にご覧になっています〉



〈昔の地図や写真を展示〉



〈貴重な資料の数々を一点一点ご覧になっていました〉



〈在校生が調査した町名の変遷の展示〉

《インタビュー》 実行委員長 出尾和憲

江戸川総合人生大学祭実行委員長の出尾和憲（江戸川まちづくり学科11期生）さんに、委員長・副委員長（去年）と二年にわたり大学祭に携わった際の奮闘したことや印象に残ったことを聞きました。

「第11回大学祭を企画するに当たって、課題になったことは、大学祭会場のセンターゾーンでの企画展示をどうするか、ということでした。一昨年の第9回大学祭は、大学開学10周年記念企画、また昨年の第10回大学祭は、10回記念企画とそれぞれの大学祭記念企画が行われました。

そこで、第11回大学祭の『特別企画提案』を全学生に募集し、テーマを『江戸川区今昔ものがたり』に決定しました。展示・体験部会のメンバーが中心となり、資料写真展示をセンターゾーンで行うことができました。

また、ステージ『特別企画、学長を囲んで』では、各クラス（11期生、12期生）計8人の学生が質問し、北野学長もそれに丁寧に答えられ、印象に残る企画でした」

まだ色々とうり大学祭について、語りきれない成功例・失敗談などが多くあるとのことですが、1000名を超えるお客様を迎えられたことで目的が達成できた喜びが伝わってくるインタビューでした。

（まち11期 加藤道雄・叶内元也）



〈大学祭実行委員長 出尾和憲〉

第11期卒業式を行いました

平成28年9月6日（火）タワーホール船堀の小ホールにて江戸川総合人生大学第11期生の卒業式がありました。江戸川まちづくり学科、国際コミュニティ学科、子ども・子育て応援学科、介護・福祉学科の合計70名が巣立ちました。

各学科長からお名前を呼ばれ、北野大学長から一人ずつ卒業証書を授与されました。

また2年間専門科目、共通基礎科目の全ての授業に出席された方に、各学科長から皆勤賞が授与されました。

さらに学長・各学科長から、思い出、激励のお言葉がありました。

そして卒業生を代表して、江戸川まちづくり学科の荒雅恵さんが卒業にあたっての抱負を発表しました。

11期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。今後のご活躍をお祈り申し上げます!!



〈江戸川まちづくり学科〉



〈国際コミュニティ学科〉



〈子ども・子育て応援学科〉



〈介護・福祉学科〉

江戸川区郷土資料室

「ふるさとの山に向ひて言ふことなし
ふるさとの山はありがたきかな」とは
有名な石川啄木の短歌です。一方、「ふる
さとは遠きにありて思ふもの そして
悲しくうたふもの」とは室生犀星の詩
の一節です。江戸川区をふるさとにす
るみなさんに江戸川区郷土資料室をこ
こに紹介します。学芸員の樋口政則さ
んに伺いました。

----- 設立年月日とその目的は？

グリーンパレス3階の〈江戸川区郷土
資料室〉は、昭和40年12月1日に開
館しました。当時は区教育研究所の所
管で、「区の過去と現在をふりかえり、
刻々と失われていく文化財を保護」し、
学校の教育活動にも役立てようとい
うものでした。昭和55年に江戸川区文
化財保護条例が制定されて、社会教育
課に文化財係が発足すると、その所管
になりました。その後、平成12年の
グリーンパレスの改修にともなって展
示室をリニューアルしました。

----- 展示企画の内容は？

江戸川区郷土資料室は、江戸川区の
あゆみを伝える資料、ここで営まれて
きた産業や生活の遺品を収集してきま
した。小岩で発見された古代の土器、
区内で発見された中世の板碑、数々の
江戸時代の古文書、近代の農具や漁具、
民俗芸能の用具や職人の使っていた道
具など、江戸川区の暮らしや産業のあ
ゆみを伝える資料が豊富にあります。

現在の常設展示は、平成20年のグ
リーンパレスが耐震補強工事によって
レイアウト変更したときに新たに構成
されたものです。古代から近代にかけ
ての実物資料をテーマにそって展示し、
大まかに区のおゆみを知ることができ
ます。また、べか舟を中心とした海苔
養殖用具は、かつて盛んであった葛西
海苔の製造工程をみることができます。
そのほか、区の地場産業であった和傘
製造、金魚養殖、レンコン栽培などの
用具もならびます。川と海と江戸川区
のコーナーでは、葛西の漁業で用いら
れた漁具、新川を通った通運丸の模型、
新川にあった水門の模型なども展示さ
れています。これらの展示資料の多く
は区民から寄贈されたもので、展示
以外にも多数の遺物が保管されています。

こうした常設展示以外にも、毎年テ
ーマを変えて短期間の企画展示を開催し
ています。学芸員が計画し、取材、調
査して、江戸川区の文化をさまざまな
角度から掘り下げています。

----- 区民の皆さんに一言

小学校の社会科見学で訪れた思い出
のある方もおられるかと思います。年
齢を重ねるにつれて、物を見る目も、
理解の仕方も違ってきます。郷土の歴
史を語るさまざまな文化遺産に触れる
ことから、江戸川区の暮らしや文化を
たどるだけでなく、未来に向けてのイ
メージをひろげることができるのでは
ないでしょうか。あたらしい発見があ
るかもしれません。文化が生まれるか
もしれません。これからの江戸川区の
文化を考えたい方は、ぜひ一度足を運
んでみてください。

所在地：江戸川区松島1-38-1

グリーンパレス3階

電話：5662-7176

午前9時～午後5時

祝日・年末年始(12/28-1/4)および
グリーンパレス休館日は休館

(国際11期 大宮信一郎)



〈郷土資料室入り口〉



〈海苔養殖用具の展示〉

同窓会の窓



江戸川総合人生大学は第13期生が入学され、新学年を迎え
ましたが、同窓会も第10期がスタートしました。

今回は同窓会の紹介を兼ねて、前期実施した活動から、主な
ものを披露させていただきます。

■「同窓会だより」発行やホームページ運営(同窓会や卒業生活
動グループ情報の発信)■講演会やバスツアー「大人の社会見
学」の実施(同窓会会員相互の懇親)■クラブ活動(同窓会会員
や在校生との懇親)■卒業生活動グループの支援(「グループ
宙」及び「ここにこ応援隊」の活動協力)■大学祭参加(「お休み
処よってこ」・オープンキャンパス協力・みと好文カレッジ

との交流会参加(学校行事等への参加、区民の方々や外部団体
との交流)■在校生との集い(卒業生活動グループと在校生と
の交流)などです。

今期も本同窓会の目的である、「同窓会会員相互の親睦を固
り」・「江戸川総合人生大学の発展に寄与する」よう、活動を行っ
ていきたいと思えます。

同窓会会長 前田 直義 (国際9期)

同窓会ホームページ <http://jinseidaidousou.web.fc2.com/>
人大ボラ連メールアドレス jindaiboraren@yahoo.co.jp

編集後記

リオのオリンピック・パラリンピックが始まった当時はメダルの数や色の違いに
一喜一憂しましたが、最後の方になるとメダルに関係なく日本人の頑張っている姿
に感動しました。4年後にはもっと感動できるのではと思ってしまふ今日この頃です。

「ひと あい えどがわ」33号では大学祭の特集を全面的に取りあげました。
学長ほか各学科長のコメントや実行委員長へのインタビューなどのほか、各クラス
の大学祭への取り組みや苦労話などを掲載しました。私たち11期生が関わる最後
の号でしたが、まだ取材できていない部分がたくさんあると思います。12・13期
生の皆さんに大いに取材していただき、いい記事を書いていただきたいと思います。
す。ありがとうございました。

編集長 加藤 道雄(まち11期)

編集：「ひと あい えどがわ」編集委員

[11期生] 加藤道雄、叶内元也(まち) 大宮信一郎、柳澤千夏(国際)
長倉尚子、山内康(子ども) 大野一雄、中村高興(介護)

[12期生] 榎本清一、箱島実(まち) 大島なお美、白坂敬三(国際)
秋山ヨシ子、一山輝江(子ども) 熊谷富雄、西峰正二(介護)